

<株式会社エフエム東京 第 4 2 8 回放送番組審議会>

1. 開催年月日：平成 28 年 5 月 10 日（火）
2. 開催場所：エフエム東京 本社 10 階 大会議室
3. 委員の出席：委員総数 6 名（社外 6 名 社内 0 名）

◇出席委員（3 名）

横 森 美 奈 子 委員長 渡 辺 貞 夫 委員
川 上 未 映 子 委員

◇欠席委員（3 名）

内 館 牧 子 委員 秋 元 康 委員
ロバート・キャンベル 委員

◇社側出席者（7 名）

千 代 代表取締役社長
平 専務取締役
吉 田 常務取締役
村 上 取締役 編成制作局長
山 科 常勤監査役
宮 野 編成制作局 編成制作部長
平 岡 編成制作局番組プロデューサー（オブザーバー）

◇社側欠席者（3 名）

富木田 代表取締役会長
延 江 編成制作局 ゼネラルプロデューサー
森 田 マルチメディア放送事業本部 ゼネラルプロデューサー

【事務担当 村上放送番組審議会事務局長】

4. 議題： 番組試聴（約 19 分）
『SCHOOL OF LOCK!』
2016 年 4 月 18 日（月） 22:00～23:55 JFN38 局ネットで放送

＜議事内容＞

議題 1：最近の活動について

■2016 年 4 月 熊本・大分 地震に関する放送について

2016 年 4 月 14 日以降に、熊本県、大分県で発生している大地震に関し、速報対応および特別番組の放送状況についてご報告申し上げます。

【地震の発生状況】 震度 6 以上

前震

- 2016 年 4 月 14 日(木) 21:26 熊本県益城町 震度 7 (M6.5)
- 22:07 熊本県益城町 震度 6 弱 (M5.7)
- 4 月 15 日(金) 00:03 熊本県宇城市 震度 6 強 (M6.4)

本震

- 2016 年 4 月 16 日(土) 01:25 熊本県益城町 震度 7 (M7.3)
- 01:45 熊本県菊陽町 震度 6 弱 (M5.9)
- 03:55 熊本県阿蘇郡産山村 震度 6 強 (M5.8)
- 09:48 熊本県菊池市 震度 6 弱 (M5.4)

【地震発生後の放送対応】

当社は 2 回の地震発生直後からいずれも速報体制を整え、ローカル番組、ネット番組ともに緊急報道特番として被災地リスナーに寄り添った放送を実施しました。ネットワークの強みを活かし FM 熊本と発生直後から即座に連携を図り、刻一刻と災害状況が変わる現地からの中継を頻繁に実施することで、被災地の今の状況を全国に伝えました。

地震・火山に関する専門家にも要所要所で取材インタビューを行い、より詳しい地震に関する情報を伝えたほか、九州地方の交通情報、天気などについての詳細を随時中継により放送し、被災地の車で移動をしようとしているリスナーへ情報を提供。また、開放したメールアドレスに寄せられた全国からの被災地への応援メッセージを紹介すると同時に、被災地のリスナーからも現地情報が多く届きました。

2011 年 3 月に発生した東日本大震災時の報道編成の経験と教訓をもとに、ヒューマンコンシャスに則った放送を心がけたところ、番組宛でのメール、次々とアップされた Twitter 等には、当社の放送へのご意見が多く寄せられました。

【災害協定関係先の情報】

JFN が災害時の協力協定を提携している、日本郵便、イオングループ、JCBA=日本コミュニティ FM 放送協会は発災後から適宜協働しながら情報連携を施しました。

主な展開は下記の通り。

- * 日本郵便 九州支社担当者に電話インタビュー 複数回
- * イオン、マックスバリュの店舗情報や、日本郵便の郵便局の開局状況、
貨物の受付情報を、FM 熊本において 1 時間に複数回放送
- * 日本郵便の荷物受付情報は、ネット番組で 1 日 1 回程度放送
- * イオンの被災地支援の状況について、FM 熊本およびニュースで放送
- * JCBA 加盟 ゆふいんラヂオ局パーソナリティにネット番組でインタビュー 等

===== 放送の詳細 =====

【4 月 14 日 最初の地震発生】

21:31-21:55 ****速報****

震度 7 の地震発生の速報を繰り返し伝える。地震の概要、原発の安全情報等

22:00-23:55 「SCHOOL OF LOCK!」(38 局ネット) ****内容変更****

・ 前震と余震の概要、原発の安全情報、交通情報、停電状況、政府の対応、
各所の被害状況 等

・ (中継) 東京大学地震研究所 青木陽介助教

FM 熊本レポート (本社、熊本県庁災害対策本部)

・ 熊本在住リスナーからの掲示板書き込み紹介、電話をつなぐ

24:00-24:55 **特別番組 (38 局ネット)** ****CM なし、「JET STREAM」休止****

・ 前震と余震の概要、原発の安全情報、ライフライン情報、政府の対応、
気象庁会見、各所の被害、死傷者情報 等

・ (中継) FM 熊本レポート (益城町、熊本市内、熊本県警察本部、熊本市役所)
気象庁会見場 レポート

・ リスナーからのメール紹介、被災地のリスナーと電話をつなぐ

25:00-06:00 **特別番組 (各局へ配信)** ****CM 休止****

・ 地震関連情報 随時アップデートするとともに、概要まとめ情報を適宜
リスナーからのメール紹介と避難所に優しい励ましの音楽で構成

・ (中継) 東京大学地震研究所 青木陽介助教

FM 熊本 (本社、益城町避難所、阿蘇高森町、熊本市内、熊本県庁、熊本市役所)

【4 月 16 日 本震】

01:25-05:00 「やまだひさしのラジアンリミテッドフライデー」(38 局ネット)

****内容変更＝報道特番対応****

・ 本震の速報を入れた後、情報更新ごとに速報

概要、原発の安全情報、ライフライン情報、政府の対応、各所の被害、
死傷者情報 等

天候悪化に伴う被害の拡大について注意の呼びかけ

- ・リスナーからのメール紹介

05:00—9:55 特別番組（各局へ配信）

- ・地震速報、地震関連情報、ライフライン情報、天候悪化への注意喚起、政府の対応、阿蘇山の小規模噴火
- ・（中継）FM 熊本レポート 3 回（本社、熊本市内、避難所、熊本県庁）
FM 大分レポート 1 回（別府市内）
東京大学地震研究所 青木陽介助教
東北大学災害科学国際研究所 今村文彦所長
熊本県玉名市防災課、日本郵便九州支社、湯布院在住市民に聞く

【報道特番 4 月 17 日（日） 19:00～19:55】（東京ローカル）

- ・「熊本・大分地震 緊急報道特別番組」
- ・出演：報道 古賀涼子 東京大学大学院 広井悠准教授
コメンテーター：東北大学災害科学国際研究所 今村文彦所長
中継：FM 熊本 伊佐坂功親 編成制作部担当部長
取材：熊本県社会福祉協議会 ボランティアセンター
- ・内容：熊本・大分地震のメカニズムを掘り下げるとともに、リスナーから寄せられた疑問を専門家に聞きながら、東京で想定される直下型地震に備えるべきことについて考える 55 分間。

その他の動き

- ▽FM 熊本からの要請により、熊本ローカルの中で 5 分間、避難所生活の方々へのライフケアの情報を 4 月 18 日～21 日で実施。当社アナウンサーと熊本パーソナリティとクロストークにより放送した。
- ▽熊本県出身のレギュラー出演者たちは、急きょ番組内容を変更のためにスタジオに駆けつけ放送直前に新たに録音を施した。
 - * 小山薫堂（日曜 13 時ジャパモンパーソナリティ）＝天草出身
 - * 森高千里（日曜 11 時 MUSIC ON THE EDGE パーソナリティ）
＝熊本市出身
- ▽鹿児島出身のアーティスト長渕剛からの申し出を受け、熊本・大分にエールを贈る特番編成（4 月 23 日 22 時～22 時半＝全国ネット）実施

■ 「EARTH×HEART LIVE 2016」開催について

TOKYO FM をはじめとする JFN38 局は、1990 年に、“アースコンシャス ～地球を愛し、感じるころ”の行動理念を掲げて、若い世代に地球環境へのマインド醸成を図る世界中継コンサートをスタートしました。そして東日本大震災を機に、2005 年から掲げるもう一つの行動理念“ヒューマンコンシャス～生命(いのち)を愛し、つながる心”をイベントメッセージに加え、2011 年からコンサート名を「EARTH×HEART LIVE」といたしました。

27 年目となる本年は、海外からも注目されるジャパニーズカルチャーを代表するアイドル「でんぱ組.inc」をメインアクトに、4 月 20 日(水)東京国際フォーラムで開催しました。

今回は新たな取り組みとして、若者から環境保全のアイデアを募り、発信する場として「LOVE EARTH LAB」を立ち上げました。MIT メディアラボ助教のサブツニ子!を所長とし、コンサートに先駆けて 3 月から番組(TOKYO FM WORLD)やフェイスブックに仮想研究所を設定、MIT やハーバードで研究されている事例を取り入れながら、若者たちと地球にできる常識にとらわれないアイデアを募りました。

昨年 12 月「COP21」が 2020 年以降の温暖化対策の国際枠組み『パリ協定』を採択、「産業革命前からの気温上昇を 2 度未満に抑える」と目標に掲げましたが、今回はこれに呼応し、「計画実現にはどうすればいいか?」と投げかけ、若者世代の環境への「キズキ」「キッカケ」を提供して共に考える機会に繋げようと企画しました。

終演後には出演アーティストがロビーに並び、熊本地震で被災された方々を支援する「アースコンシャス募金」を呼びかけ、多くの観客の協力をいただきました。寄せられた募金は日本赤十字社を通じて被災地の義援金配分委員会に全額お送りします。

当日は世界一貧乏な大統領とも言われ、地球環境に関しての国連演説でノーベル平和賞候補となったホセ・ムヒカ ウルグアイ元大統領からもこのイベントのために、地球環境の保護と人間の命や暮らしが共存していくことの大切さを訴える心温まる映像メッセージが寄せられました。

以下、メッセージ全文を掲載いたします。



きみたち若者だけでなく、親も私たち年よりも、何が幸せなのか、一度考えてみよう。

私たちの人生はたった 1 回。人生は 1 回だけ。取り返すことはできない。

命はもっとも価値があるもので、その限りある人生が幸せなのか悲しいものなのか、それを一生懸命考えよう。

親と言うのは仕事が忙しいモノなんだ。それは子どもに不自由をさせないためなんだ。

だから子どものために割く時間がなくなる。でもどちらが価値があるんだろう。親はたくさんのお金や物を家に持って帰るのか、または、持って帰る者は少なくても、子どもという時間をたくさんもつか。

いいかい？ここで考えなくてはならないのは、モノと言うのは、愛情を与えることではないということだ。

愛情は、人間が与える時間だ。子どもにかける時間が愛情だ。

ちょうどよい調和。生きていくためには働かなくてはならない。でも時間も必要だ。

子どもやパートナーや友達へ愛情を注ぐ時間。

そこで大事なのが、質素な生活。最低限必要なものと生きる。

人生は一度だけ。いつかはなくなる。

どこで命が育まれるか。

土、水、空気。セメントで囲まれた都市に住んでいても、

食べ物を作るために土地を耕している人を忘れてはいけない。

食べ物がなくては生きていけない。土や水を大切にしなければ、食べ物の質が悪くなる。

もっともすぐれたエコロジストはアマゾンの原住民たちだ。

3000 年も前からアマゾンに住んでいて、ずっと変わらない生活をしている。

変わらない生活。

私たちは原住民にはなれない。昔に戻って、現代の素晴らしい文明を覆すことはできない。

しかし私たちは、学んでいかなければならない。

世界には限界がある。

90 億の人々が先進国のように消費するならば、地球がもたない。空気も水ももたない。

ここで一生懸命考えよう。

持続的な方法でエネルギーを大切にし、リサイクルし、環境を保護するにはどうしたらいいか。

自然は繰り返し恵みを育むメカニズムを持っている。

まず地球を感じよう。

考えてみよう。違ったやり方がある。生産、分配、モノを大切にすること。とくに生きるための時間を持つこと。

人生を愛すること。

形の違う幸福がそれぞれにあり、そのために努力すべきだ。

私たちは常に努力しなければならない。

人が一人にならないように。

いいかい？

この世で最悪な貧しさは孤独だ。

人は、人のなかで生きていくものだ。

環境について考えるとき、一番大切なのは、私たち人間の暮らしそのものだ。

人間の命を大切にすること。

それが環境について考えるということだ。



▲ホセ・ムヒカ前大統領による
スペシャル・メッセージ



▲オープニングアクトの Little Glee Monster
メインアクトの でんぱ組.inc
スペシャルゲストの スチャダラパー
現代アーティストの スプツニ子!氏

■第 53 回ギャラクシー賞に、TOKYO FM の 2 作品が入賞

このほど、放送批評懇談会主催「第 53 回ギャラクシー賞」（対象期間は、2015 年 4 月 1 日～2016 年 3 月 31 日放送分）の年間入賞作品が発表され、ラジオ部門の入賞 8 番組中、当社制作の以下 2 番組がノミネートされ入賞が確定しました。

★2016 年 3 月 6 日(日)放送

エフエム仙台・TOKYO FM 共同制作

「ライターをつぶやき～河北新報の 5 年～」

★2016 年 2 月 17 日(水)放送

「SCHOOL OF LOCK！」

「学校なんか早く卒業したい」・・・広島県 15 歳中学 3 年生のリスナー（センターセンターさん）が 3 年間学校になじめず学校を早く卒業したいという書き込みを軸に放送。校長・教頭がそのリスナーの心の奥底にある「本当は卒業式に参加したい」という気持ちがあることを引き出し、全国から様々な書き込みが寄せられ、そのリスナーが少しずつ変化を見せ始める。

＜ラジオ部門入賞 8 番組＞

- ・憲法で巡る日本の旅（九州朝日放送）
- ・赤ヘル 1975（中国放送）
- ・遠くなる戦争を語り継ぐ～女性ノンフィクション作家の対話～（日本放送協会）
- ・学生に夏休みはない 2015（毎日放送）
- ・タモリのオールナイトニッポン GOLD Song&BOSS スペシャル（ニッポン放送）
- ・SCHOOL OF LOCK！（TOKYO FM）
- ・エフエム仙台・TOKYO FM 共同制作「ライターをつぶやき～河北新報の 5 年～」
（TOKYO FM・エフエム仙台）
- ・Memorial Graduation 2016～小学校卒業生のメッセージ～
（アップルウェーブ）*青森県弘前市のコミュニティ FM

6 月 2 日(木) 午後 3:00～セルリアンタワー東急ホテルにて贈賞式が行われ、ラジオ部門は上記ノミネート 8 本から、大賞 1 本、優秀賞 3 本、選奨 4 本が選出されます。

なお、当社は 2013 年度の第 51 回で「LOVE&HOPE～3 年目の春だより」（大賞）と、「前略、倉本聰様～小山薫堂からの贈りもの」（選奨）。2014 年度の第 52 回で「ピート・シーガー追悼特別番組」（選奨）が入賞しており、在京局で唯一 3 年連続でのギャラクシー賞ラジオ部門入賞となります。

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側説明)

○熊本で地震が起きたときに自分もまずTVをつけて、どこで何が起きたのかビジュアルで把握したが、大変な状況の人々に対して矢継ぎ早に質問をする様子がいつもイヤだな、と思う。また、現地では数日経っても報道のヘリの音で救助したくてもエマージェンシー音が聞こえないなど、実害もある。

TVをはじめとする多くのマスメディアは、このような事件や災害が起きるとすぐにドラマ性を求めて消費するような傾向がある。しかしラジオメディアはこういうとき、ともすればTVが供給過剰になってしまうような部分に対し、音楽を含め異なる方向からアプローチできるメディアだと思う。

■東日本大震災の際にも、すぐに社内で会議をして、全民放の中で当社が最初にノンコマーシャルの方針を出した。ACの素材も当社はオンエア中止を決定。ネットワークを通じてエフエム仙台の放送に随時乗り入れするかたちでオール生放送に切り替え、リスナーに対してFM放送として機能した。

○緊急時で非常に大変だったと思うが、東日本大震災の経験が大きく活かされた放送になったのではないか。

■FMラジオメディアが被災地目線で被災者に寄り添った放送をすべきだ、という前の震災の際の教訓が活かしたことは確かだと思う。今後、首都圏などでも災害が起きる可能性が高く、今後の報道でも活かしたいと思う。

議題 2： 番組試聴

【番組名】 『SCHOOL OF LOCK!』

【放送日時】 2016年4月18日（月） 22:00～23:55 JFN38局ネットで放送

【番組概要】

本日ご試聴いただくのは、4月18日(月)に放送した、『SCHOOL OF LOCK!』のダイジェストです。

東日本大震災から5年、TOKYO FMではさまざまなレギュラー番組、特別番組で被災された皆様の心に寄り添う番組をお届けしてきました。

『SCHOOL OF LOCK!』でも、震災で離ればなれになり、それぞれの高校を卒業した福島県南相馬にある高校の3年生を集めて2012年3月に実施したイベント“もうひとつの卒業式”をはじめ、折に触れて繊細な10代の心情に合わせた、丁寧な番組作りを心掛けてまいりました。

今回の熊本県を中心とする震災では、4月14日の最初の地震発生時に放送内容を変更し、災害情報だけではなく当日の番組WEBサイトの内の掲示板に寄せられた熊本のリスナーからの書き込み紹介をしたほか、不安の最中にある彼らと直接電話を繋ぎ話しました。その週末には、通常閉じている掲示板を動かし、熊本・大分のリスナーとのコミュニケーションを取り続けました。

本日ご試聴いただく放送回は、こちらも予定内容を変更し、掲示板に書き込みがあったリスナーに時間のある限り電話をしていく授業「掲示板逆電」を行いました。ご試聴いただくパートは、熊本県で被災して避難所にいる17歳のリスナーの女の子「広く！深く！！」さんと番組パーソナリティである校長・教頭を電話でつないだ部分です。彼女が10代の目を通じて伝える家の近くにある中学校の体育館での避難生活はリアルであり、この回の放送も全国のティーンたちの心情を真正面からすくい取ってきたSCHOOL OF LOCK!の視点で制作しました。

【委員の意見および社側説明】

（「○」委員意見／「■」社側説明）

○同じドキュメントというくくりで被災者の声を伝えるのでも衝撃的な映像がともにあるTVと、音声だけで情報を伝えるラジオとでは、感情の伝え方がまるで違うということを改めて感じた。ラジオはやはり人の感情を緩ませるし、話す方も聴く方も、いい意味でのリラクセス感があるのだろうと思う。

もし自分の中高生時代にこのような番組があったら、どんなことを話しただろうか、どんな大人に成長しただろうか、ということも考えた。大人が聴いて

もそう思えるということは、リスナーの中高生たちは日々すごくいいものを番組から受け取っていると思う。突発的な災害に対してこのように迅速な対応がとられた放送だったこともすばらしく思うが、SCHOOL OF LOCK!という番組の懐の深さを感じさせる内容だったと思う。また、番組がひとつのコミュニティとして少年少女たちの心にあるのだろう、ということを感じながら拝聴した。この放送回では、番組内で音楽が流れる部分もあったのか？

■本日お聴きいただいたものはダイジェスト版のため、編集の都合で音楽については全てカットしたが、基本的にはリスナーとの電話の後に、話の内容に沿った音楽を挿入しながら番組を進めた。

○すごく臨場感がある展開だったので、いちリスナーの気分で聴き入ってしまった。電話をつないだ会話の内容について、放送後の反響はあったのか？

■番組掲示板に、応援メッセージなどの書き込みが多くあった。

○被災した女の子を元気づけたいという気持ちは理解するが、校長と教頭の話しかけ方が言葉使いのせいか、少し乱暴に思った。もう少し10代の彼女に寄り添った、落ち着いたのある問いかけの方法が他にもあったのではないか。理想を言えば、電話ではなく実際に会った様子が放送されたらもっとよかったと思う。しかし、この番組自体はすごく評価しているので、今後も期待している。

○リスナーとのやり取りというのは、これまでもこの番組内で頻繁にあったけれど、今回の放送は本当にしみじみしてしまった。やはり言葉の重みがしんと伝わってくる。今さらだが、置かれた状況が違う人たちとコミュニケーションを取る、ということとはとても大事なことだと思った。遠く離れたこちらがいくら心配をしても、現地の方が普通のトーンで話をしてくれるだけで、心からほっとするし、そこで起きていることが強く伝わってくる。

また、出演してくれた17歳のリスナーの女の子もすばらしい。すごくしっかりしている。淡々と話し始めて、最後は少し感情がこみあげてしまうところも年齢なりで自然だし、一生懸命に話している感じが伝わってきて、こちらも心打たれた。これはラジオでしかできないこと。今日は本当にしみじみ、SCHOOL OF LOCK!という番組の良さを感じられて良かった。

■彼らと話をしてわかったことは、避難所にいるような状況なのにもかかわらず、親や家族ともこの地震の話について会話していないこと。むしろ触れないようにしている。その理由としては、自分が不安に思っていることを知って親が心配するのではないかと考えていることが大きい。子供は子供なりに気を使

っている。また、周りも全員同じ状況だということもあって、その話題自体を避けている。出演してくれた女の子は、番組を通じて、地震後初めて泣くことができた、ということだった。彼ら、彼女たちもこの天変地異によって自分に起こったことについて誰かと何かを話したいけれど、当事者同士では、あまりにも現実すぎて、この話題について話すことすら憚られる状況にあることもわかった。そこで、通常の週末には閉じている掲示板を土日も開けて、被災地のリスナーと全国の同年代のリスナーがコミュニケーションを取れる場を作った。

○本人も話すことによって癒されるし、それを聴いたリスナーが現地の情報に触れることができるということもあるが、それよりもかけがえのないことだと思うのは、昨日まで自分と同じような日常を過ごしていた同世代の友達に、ある日突然こういうことが起きて、いまこの状況にある、ということ。今の日常が当たり前じゃない、いつ同じことが自分の身にふりかかるかもしれない、と感じたと思う。いくら大人が「いつか地震が来るから、備えなさい」と言葉で言うよりも、よほど正しく伝わったと思う。同世代の子が伝えるリアルは、すごく大きな意味を持ってシェアできるものだったのではないかなと思う。

○最後に毎回言っている「また明日！」という言葉も、明日もちゃんとあるからね、という意味に聴こえて、感動を覚えた。普段何気なく使っている言葉でも状況によって違う意味に聴こえる。そんな言葉の大事さにも気づかされた。

■SCHOOL OF LOCK!もスタートして10年経った。全国の中高生の心の拠り所、としてのポジショニングを確立できていると感じる。今後も初心を大事にししながら、この番組を育てていきたい。

5. 放送番組審議会の内容について

審議会の意見は、放送番組審議会事務局から各担当部長に伝達した。

6. 公表

議事内容を以下の方法で公表した。

- ① 放送: 番組「SPO☆LOVE」
5月28日(土)5:00~6:50放送
- ② 書面: TOKYO FMサービスセンターに据え置き
- ③ インターネット: TOKYO FMホームページ内 <http://www.tfm.co.jp>

7. その他

次回の放送番組審議会を、6月7日(火)に開催することを決めた。